

平成 28 年度 福島大学大学院人間発達文化研究科 (2 次募集) 入試問題

専攻 (領域) 名	地域文化創造 (日英言語文化) 【国語】	科目名	日本語
-----------	----------------------	-----	-----

受験番号	
------	--

文章を読んで、以下の設問に答えよ。解答はすべて日本語で記述すること。

A 日常の日本語使用の流暢さには問題が見られないが学習場面で困難を感じているのは、複数言語背景の子どもだけに限らない。子どもを取り巻く環境の変化の中で、単言語環境の子どもでも、言語発達・習得の様相に変化が見られ、一般の子どもたちの中にも同様の問題を抱え、対応を必要とする状況があるのではないかと。

就学前の子どもの言語発達は、学校生活につながる重要な基礎である。物語や絵本の読み聞かせ、その日のことを細かに報告し合うといった親子間の言語活動は、ことばによって眼前にない世界をイメージしたり、事柄の展開や詳細を理解し問いや感想を述べたりする、思考を伴う活動である。このような喜びや楽しさに支えられてじっくりとことばと向き合う言語活動は、子どもにとって単なるおしゃべりとは違う、思考を伴う言語使用の経験となる。またこの経験が学校での集団的学習の場で大量の言語情報に向き合う学習活動の準備となり、学習言語能力の獲得につながっていく。

しかし、メディアの発達子どもが育つ言語環境にも大きな変化をもたらしている。インターネットの普及で、家庭から新聞や雑誌が消え、手紙や書類も筆記用具を用いずキーボードで入力するという作業に変わり、ビデオや DVD などの普及で書籍の存在が薄くなった。家庭で親が新聞を広げている姿や、ペンを握って何かを書いている姿、そして楽しい絵本を読んでもくれる姿に接することで、子どもはまず「読む・書くという行為」を認知する。文字の読み書きの意味を理解し、興味を持つというレディネスができることで、文字を覚えるという単調で忍耐の必要な作業に取り掛かれる。しかし、親が眺める PC 画面は幼児にとって文字の世界としては認知されにくく、家庭によってはゲーム機や映像媒体など一方向のメディアが主で、子どもが文字に触れる機会や、問いや理解をことばで確かめ合う機会が少ない状況がある。複数言語背景の家庭では、親が利用可能な言語では絵本等の入手も困難であるなどさまざまな問題があるが、単言語環境でも一般家庭の言語環境には大きな差が見られ、従来の学校教育が想定してきた入学時までの子どもの言語発達段階に届いていない事例が増えてきているのではないかと。

SNS の普及は学齢期以降の子どもたちの言語生活に大きな影響を与えている。友達との交流で比重の大きい SNS は、単語あるいは単文に絵文字やスタンプという非言語媒体でニュアンスや気持ちを付し、相互の共感性の確認を主目的としたやりとりである。自分の書いた文を読み返すこともなく送信ボタンを押すという行為は、文章・談話としての一貫性や論理性、読み手・聞き手の理解を意識した全体構成やことばの選択といった、高度な認知活動としての言語使用の経験とはなり得ない。

言語活動の経験以前に、様々な生活体験の乏しさも、言語能力に影響する。ことばの獲得は、自分の中に形成された感情や概念がことばという形と結びつくということである。生活体験自体が乏しければ、様々な感情が湧いて来たり、未知のものに出会って疑問を持ったたりすることも、それを誰かから説明してもらい機会も少ない。授業の中で新しい概念を導入するときに、教師は身近な事物を例に出して理解を導くことをするが、例とした事物のイメージを持たない子どもは、説明の談話を理解する手掛かりが得られず、説明を聞いて理解するという学びの経験にもならず終わってしまう。B 複数言語背景の子どもの場合、親の日本語力や母国と日本の社会文化の違いなどが壁となって、親が日本社会の情報を人手できず、生活体験を広げられないという問題もある。

家庭環境等によっては、日本社会で日本語のみを使用して育ってきた子どもであっても、学習言語能力の発達が停滞し、学校における集団での学習活動に十全に参加できないまま学年を重ねてしまっていることがあり得る。そのような場合、問題を言語知識 (漢字、語彙など) の不足、あるいは知能、学習態度の問題と捉えて、言語知識や技能面補充の作業のみを続けさせることでは、学習言語能力獲得にはつながらない。能力は知識の集合体ではない。言語能力の発達のステップを踏んだ指導が必要となる。

(石井恵理子「思考力としてのことばの力を育てる国語教育へ」『日本語学』34:12 より)

問 1. 下線部 A について、筆者がこのように考える理由を、本文の内容に即して日本語で説明しなさい。

問 2. 下線部 B について、このような環境にある子供たちの言語能力を育成するために、どのような方策が考えられるか。あなた自身の考えを日本語で自由に論じなさい。